

緒言

水谷 潤

Jun MIZUTANI

名古屋市立大学大学院
医学研究科整形外科分野

今回、「脊椎手術—前方か後方か？」というタイトルで特集を組まさせていただきます機会を得た。

脊椎手術においては、原則は前方法、後方法そのいずれも、利点と欠点が存在し患者さんの病態に応じて適切に使い分けることが必要であるが、術者の哲学、手術を行う施設環境などから、術者の得意な方法によって決定されることも多いと思われる。

本特集では、頸椎後縦靱帯骨化症、現在ホットな話題である頸椎後弯変形、また、LIFの普及とSchwabの分類から病態理解と手術法ともに格段の進歩を遂げた胸腰椎のいわゆる成人脊柱変形に対し、これらの手術に対して、前方手術あるいは後方手術を病態に応じて使い分けるべきポイント、あるいはどちらでも同等の成績が得られるような場合には、術者の好み、得意な方法としての前方法、あるいは後方法を選択すべき理由に関して各手術におけるエキスパートに執筆をお願いした。

各筆者の信念と熱い想いが読者の先生方に伝わるよう執筆をお願いした次第である。本特集を熟読すれば、病態に応じた使い分け、各筆者の哲学まで触れて感じ取ることができるはずである。

この特集が若手の脊椎外科医、あるいは今後脊椎外科を目指す若手の医師の先生方、あるいはエキスパートの先生方にも知識の整理と目からウロコが落ちるようなチップスが得られるかもしれない。明日からの脊椎診療の一助となれば幸いである。